



時 栃 報 幼

題字／栃木県知事 福田富一氏

第 129 号

平成29年6月20日

一般社団法人 栃木県幼稚園連合会

〒320-0032 宇都宮市昭和1-3-10 栃木県庁舎西別館

☎028(622)2821 FAX 028(622)2816

●編集人／伊沢 信恭 ●発行人／石嶋 勇

■栃幼連ホームページ <http://www.youchien.or.jp>



こどもが
まんなか
PROJECT

平成二十九年度を迎えて

理事長挨拶



栃幼連理事長 石嶋 勇

平成二十九年五月十七日の栃幼連五月定時総会を経て、就任以来六年目のスタートを切らせて頂きました。

今までの五年間多くの先生方のご指導とご援助を賜り、お蔭様で大過なく責任を全うすることが出来ました。ありがとうございます。

平成二十七年四月一日から子ども・子育て支援新制度がスタートして早くも三年目を迎え従来の学校法人立として「私学助成」を受ける幼稚園が八十九園、新制度へ移行して認定こども園として「幼保連携型」「幼稚園型」等の「施設型給付」を受ける幼稚園由来の施設

設が九十三園となりました。現状として、国が定めた複雑な制度のため新制度へ移行した園では、今なお不慣れな事務処理等に追われ苦慮しているところであります。そのような中で県・市町の行政担当者の温かいご指導を賜り丁寧に問題解決を図っております。

今後新制度へ移行園が増加するものと思われませんが、私たちは「すべての子どもの最善の利益が実現される社会を目指す」そんな思いを抱き大きな変革期を乗り越えて幼児教育を前進・発展させて参ります。

しかし、現在保育士不足が深刻な問題として提起されています

が、幼稚園教諭免許状の更新制度や保育教諭（両方の免許・資格）を有することを原則とされていることも人材難に拍車をかけているのではないのでしょうか。保育士不足についてはマスコミが連日報道しておりますが、幼稚園教諭についてはあまり報道されておられません。社会の認識では「幼稚園の先生は足りている」このように間違った認識が先行しているのも事実であります。

私たちは幼稚園教諭も保育士同様不足していることを社会に訴えていかなければなりません。質の高い教育保育を担保するためにも人材確保は急務であります。また、養成校との連携協力も必須であり、職員の働く環境や福利厚生・賃金改善など早急に取り組み改善しなければならぬ問題もあり、そのために保護者経費負担軽減も含め公的支援を栃幼連、栃私幼振興連盟が連携協力して要望して参ります。

会員の皆様の振興活動へのご支援ご協力を重ねてお願い申し上げます。

平成二十九年度を迎えて

こども政策課長 阿久澤 真理



新年度となり早二カ月。初夏の

さわやかな風が木々や田んぼの緑とたわむれる頃となりました。子どもたちもきつと、園内の新たな生活に慣れてきたころではないでしょうか。

一般社団法人栃木県幼稚園連合会及び会員の皆様には、本県の幼児教育の振興や充実のため、格別の御尽力と御協力をいただき、厚く御礼を申し上げます。

さて、我が国は、核家族化や未婚化、晩婚化が進み、合計特殊出生率の低下傾向は深刻化し、本格的な人口減少時代を迎えています。こうした社会の大きな変化に対応し、豊かさを実感できる社会を実現するためには、未来を担う子どもたちを社会全体で守り、育てていくことが重要であり、幼児期は生涯にわたる人格形成の基礎を築く時期として、幼稚園・認定こども園に対する県民からの期待は大きなものがございます。また、女性の活躍等を促進するため、地域の実情に応じた子育て支援の充実もより一層求められています。

特に少子化対策は、国や地方自治体において、喫緊かつ最優先に取り組みなくてはならない課題となっております。県では、「とちぎ元気発信プラン」を昨年度からスタートさせ、様々な取組を実施しておりますが、今年一月、その取組の一つであります「とちぎ結婚支援センター」を開設し、結婚支援に取り組んでいるところです。

また、教育・保育の分野では、昨年四月から、第三子以降保育料無償化の対象をこれまでの三歳未満児から幼稚園児等も含めた未



就学児まで拡大しております。さらに、子育て家庭の多様なニーズに対応したサービスを提供するため、市町と連携を図りながら三年目を迎えた「とちぎ子ども・子育て支援プラン」の中間年の見直しを行い、計画的な量の拡充と質の向上を目指して参ります。

子どもたちがすくすくと育つことは、保護者の方々をはじめ、子ども・子育てに携わる全ての人々の共通の願いです。次世代を担う子どもたちが園内に元気な声を響かせ、心豊かに成長できるよう、栃木県幼稚園連合会や幼稚園・認定こども園の皆様の更なる御理解と御協力をお願いいたします。

信頼される 幼児教育センターとして

幼児教育センター長 森田 浩子



少し遅れていた桜が咲き始めた四月五日（水）、幼児教育センター

では、新規採用幼稚園教諭研修第一日が開催されました。あこがれの職に就き、期待に胸を膨らませた二百八十一名の受講者が真剣なまなざしでこの研修に臨んでいました。この日を皮切りとして、平成二十九年度も幼児教育センターの様々な研修や事業が始まりました。ここでは今年度の研修や事業等の中で、特色あるものにつつま

して御紹介いたします。

一 「幼小連携推進者養成研修」について

県内各地域において幼小連携を進める推進者の育成と、成果の公表を目的とした「幼小連携推進者養成研修」は二年目を迎えます。平成二十八年度の受講者については、作成したジョイントプロジェクトが幼児教育センターのHPに掲載され、県内の市町において講師等を務めるなど、活躍の場が与えられています。本年度の受講者についても、その資質・能力の向上を図るために研修内容を充実させていきたいと考えております。

二 「新教育課程中央説明会・新教育課程地区説明会（幼児教育）」について

新しい幼稚園教育要領等が平成二十九年三月三十一日に告示され、平成三十年度には完全実施となります。改訂の趣旨と今後の幼児教育の方向性について理解を深めるため、管理職対象の「新教育課程中央説明会」を一日、各園の教育課程編成の担当者対象の「新教育課程地区説明会」を三日間開催いたします。新教育課程の理解は自園の次年度の教育課程編成には不可欠です。これらの説明会に、各園からの参加をお願いいたします。また、今年度中に「教育課程編成の手引」を作成します。完成時には御活用ください。

三 教育・保育アドバイザーの派遣について

各園の園内研修や地区等の研修

会などに幼児教育センターの職員が出向き、講話や演習、効果的な研修手法の紹介等を行います。また、センターで実施した研修の一部を園内で行うことや、県教育委員会の関連機関と連携した研修も可能です。年三回ほど希望する園を訪問する「園内研修サポートプログラム」も実施いたしております。栃木県では、とちぎの求める教員像を、「自信と誇りをもって子どもたちと向き合える教員」としております。幼児教育センターの事業が、県内各園の教職員を支援するものとなるよう、今年度も努力していききたいと思います。

平成29年度 定時総会



平成二十九年五月十七日（水）ご来賓に、栃木県議会議員小林幹夫様、栃木県保健福祉部こども政策課子ども・子育て支援班長齋藤淳様、同課課長補佐篠崎孝様、同課主任神地匡様、栃木県幼児教育センターセンター長

森田浩子様のご臨席を賜り、宇都宮コンセールにて定時総会が開催された。中川副理事長が開会を宣言した後、石嶋理事長が、『新制度がスタートして3年目に入り、栃木県幼稚園連合会加盟園において



新制度移行園と私学助成園がほぼ同数となるが、今まで以上に一枚岩となり、栃木県の子どもの豊かな未来に向け、各種取り組みに邁進しよう。」と力強い言葉を述べられた。

続いて、ご来賓である栃木県議会議員の小林幹夫様からご挨拶を賜った。ご挨拶の中で、栃木県の小学生の学力や体力の低下を懸念され、向上には就学前の教育が重要であると指摘された。また幼稚園教諭の待遇改善にも触れられた。

議案では議長に小山地区の薬師寺幼稚園園長内木秀雄先生を選出し、平成二十八年度事業報告を石嶋理事長、各委員会委員長より報告された。



審議事項では、平成二十八年度収支決算書類及び附属証明書の承認について審議し、満場一致にて可決承認され議事を終了し、船田副理事長の閉会のことばで定時総会を閉会した。

「資格審査」

出席園 百一園
委任状出席園 七十四園

「議事録署名人」

聖母幼稚園

栗原 森人先生
認定こども園烏山みどり幼稚園
吉水 義浩先生



栃木県私立幼稚園振興連盟
平成二十九年度総会



平成二十九年度栃幼連定時総会終了後、栃木県私立幼稚園振興連盟の総会がコンセーレにて開催された。

石川均振興連盟会長の挨拶の後、議長に内木秀雄氏（薬師寺幼稚園）を選出し、「資格審査」会員数百七十三名中、出席八十七名、委任状出席八十名、欠席六名「議事録署名人」栗原森人氏（聖母幼稚園）、吉水義浩氏（認定こども園烏山みどり幼稚園）、「記録人選出」河合智美氏（事務局）の手続きを経て議事に入った。

①平成二十八年度事業報告並びに収支決算の承認について

②平成二十九年度事業計画（案）並びに収支予算（案）の承認について

③自由民主党栃



木県私立幼稚園支部平成二十八年度収支決算並びに平成二十九年度収支予算（案）の承認について

の三議案は、すべて原案通り可決承認された。

終了後開催された幼稚園教育振興懇談会は、参加者同士の活発な情報交換が行なわれた。有意義な懇談となった。



平成29年度
幼稚園等問題研究会

日時 平成二十九年三月九日（木）午後三時

会場 ニューみくら二階 二〇七号室

出席者

県こども政策課

班長 横田 公宏氏
課長補佐 篠崎 孝氏
副主幹 大根田 敦氏
係長 野中 延寿氏
主査 稲見 啓氏
主任 山崎 裕子氏

主事 三井恵里子氏
栃幼連 正副理事長、常任理事、地区会長



平野総務委員長の司会のもと、和やかな雰囲気の中で開催された。今回の研究会の趣旨が述べられ、以下の協議事項について、活発な意見交換がなされた。

《こども政策課からの協議事項》
一、平成二十九年度県予算の概要について

《県幼連からの協議事項》

一、各市・町に対する「こども子育て会議」への推進について
・県より各市町村へ「こども子育て会議」を推進する指導をしていただけないか？

二、人材確保について

三、添付書類にあたり、同一内容のものが多く、課内で共有できる仕組みについて

四、ミドルリーダーを育てるための四万円（処遇改善）の手当について

五、（主任との逆転現象の恐れがあり、取り扱い方法について）

六、私学助成園に対する処遇改善に対する動向
七、監査時における、指摘事項の統一性について

八、事務処理の効率化

・認定こども園用の「事務の手引き（電子版）」及び、マニュアルを作成してはいただけないか？
・年間を通した事務日程の一覧表を作成してはいただけないか？（いつ頃の書類を提出するか等）

九、特別支援補助事業について
・在籍する月数に応じた補助をしていただけないか？

一〇、指導要録、支援情報引継ぎ所の簡略化
その他、認定こども園の利用定員の変更についての質問や、預り保育担当者研修の開催回数を増やせないだろうか等、活発な質疑応答及び協議がなされた。今回の研究会が、よりよい幼児教育に繋がるよう期待が持てる有意義な研究会となった。





研修会だより

第一回保育テクニカル講座

期日 平成二十九年
五月二十二日(月)

会場 コンセーレ(大ホール)

参加 百二十四名

内容

「子どもの能力を引き出す上手な関わり方とは…」

アドラー心理学で子どもの様々な問題を解決しよう。

講師

株式会社 打つ手は無限

代表取締役 鈴木 稔氏

子ども保育の心から始まる。子ども保育の心から始まる。子ども保育の心から始まる。

立てるために、子どもや保護者との関わり方を

アドラー心理

学から考

えた。

まず、二

人で組に

なり、肩

たたき・二

人の共通点

を見つける



などをし
て受講者
同士の親
密性を高
めた。子
どもや保
護者との
コミュニ
ケーションの取り
方とし

て、名前を覚える・共通点を多く見
つけるなど親密性を高めると、親し
みやすくなる。子どもの気持ちの変
化、イヤイヤの気持ちを变えていく
ことが幼児教育であり、問題のある
子に対しては、①精神医学は、脳が
動かす↓科学物質の投与②心理学・
原因論は、体は心が動かす↓分析と
診断が中心③アドラー心理学は、体
と心は「私」が動かす↓治療と再教
育が中心となるが、その子自身をど
うするかは、保育者の手にかかって
いる。

また、感情的になると、思考が落
ちてしまうため、保育は感情的にな
らないように心掛け、相手の感情を
しっかりと読み取ること、共感す
ることが出来る。今回の研修では、
正しい知識と技術でどんな子でも伸
びることを学び、子育ては愛情と技

術が大切であることを学んだ。子ど
もは、良い先生だけではなく、楽し
い先生を望んでいることを再確認で
きた研修であった。

第一回保育セオリー講座

期日 平成二十九年六月九日(金)

会場 コンセーレ

参加 百五十七名

内容

「気になる子こんな時はどうす
る？」～発達障害の特性と、褒め
方、叱り方のコツを知る～

講師 東京学芸大学教授

小笠原 恵氏

発達障害を抱えた子供たち
への具体的な伝え方や、褒め
方、叱り方を、特性を踏まえながら
学ぶことができた。

例えば、たくさん覚えることが苦
手なので一つずつ伝える。急な切り

替えが難し

い時は「後

いくつ作

る？1つ・

2つ？」な

どの選択肢

を本人に与

えると、自

分の行動に

責任をもつ



ようにな
り、切り
替えるこ
とができ
る。時間
の感覚は
難しいの
で、砂時
計やタイ
マー等見
える物を
使うとそ

こに合わせる力がつく。言葉での指
導がわかりづらいこともあり、抽象
的な言葉でなく「静かにして」なら
「口を閉じて」と具体的に思考、行
動に結びつく言葉で話すとわかりや
すい。又、叱ることを繰り返すと耐
性がつき、エスカレートするとその
人を避けるようになってしまふ為、
褒めて育てるのが良い。褒めるとき
は「がんばってね」ではなく「自分
から勉強を始めて偉いね」と具体的
にすぐに褒めるのが効果的である。
これらのように工夫次第で生活の
しにくさが改善されることを学ん
だ。又、改善されないと非行や精神
疾患の2次・3次障害となり家族を
も巻き込んでしまう可能性が高くな
ることも知った。



新制度施行後の 現状と課題

栃木地区

認定こども園吹上幼稚園

理事長 酒井 精一

幼稚園型

利用定員 二七〇名



当園は、平成二十八年度から〇〜二歳児利用定員三十名の認可外保育施設を接続した認定こども園として再出発した。

前年度に少子化で空きスペースがあった既存園舎の大規模修繕を行い、人材を何とか確保してスタート、当初は戸惑いの連続、前年度移行した園や市担当課に相談して試行錯誤しながら乗り切った一年だった。市も二年目で業務の流れが定まったばかり、一年経験してやっと新制度の全体を捉えることができた。

メリットは、毎月纏まった給付費が入るので私学助成に比べ運営が安定していること、施設整備補助が事業費の四分の三と手厚いこ

と、乳児一歳児の成長の姿を目的の当たり前にして二歳児以降の保育の進め方を確認できたこと、保育部と幼稚園部職員の職務内容の違いを確認できたこと、自園調理の給食を提供できたこと。デメリットは、保育時間が長くなること、土曜や盆休みに保育を提供すること、申請や報告等事務が複雑なこと。

新制度の基本理念はあくまでもすべての子ども・子育て家庭を対象に質の高い幼児教育や子育て支援を提供することで、理念達成には優秀な職員の確保が最重要課題だ。質の高い教育の提供は、今までの実績を継承し更に磨きをかけること。保育需要への対応は、中途入園の満三歳児等の年度末三時点の園児数を想定し必要職員数を算出して確保を目指すこと。職員が少ないと加算が採れず、待機児童受入にも協力できない。経験や技量にふさわしい待遇と職場の良好な人間関係が人材確保には不可欠で、皆がやりがいを感じ協力しあう活気ある職場作りを進めて地域の需要に応えていきたい。



認定こども園烏山みどり幼稚園

園長 吉水 義浩

幼保連携型

利用定員 一五〇名



当園のある那須烏山市は、県の東部に位置し産業も少なく過疎化や少子化の進んでいる地域である。

園児数の減少が著しく定員の三割程度と先の見えない状態であったが、平成二十一年に小規模の認可保育園を設置したことにより、旧接続型の幼保連携型認定こども園の認定を受けた。

平成二十七年の新制度施行にともない、六年間運営してきた保育園を廃園し幼稚園と統合して今日にいたっている。立ち上げ当初から職員と共に制度の成長や変化のたびに試行錯誤を重ねてきた。これも子ども一人ひとりを大切にしたいという理念に基づいている。

今年、新制度三年目を迎え、子ども・保護者・行政などの対応も徐々に慣れてきてはいるが、まだまだ道半ばというところである。

特に職員確保については苦労する。また、職員の配置に見合う加算等については依然として慣れない部分が多い。しかし、職員が量的に増加し経験を重ねていることによる質の向上を少し実感できるようになってきている。

今後の課題は、事故防止と子育て支援を感じている。重大事故の防止は特に重要で、毎月の職員会議や機会のあるごとに注意を促し、研修にも積極的に参加するようにしている。子育て支援については、まだまだ足りないと感じているが、保護者からも信頼され地域に愛される認定こども園を目指す意味でも力を入れていきたい。



研修会だより

第6回後継者育成研修会

期日 平成二十九年二月二十日(月)

会場 ホテルグランドヒル市ヶ谷

講師

講演Ⅰ 田中 雅道氏
(全日私幼連副会長)

「これからの幼稚園教育の展望」

行政報告 伊藤 学司氏
(文部科学省初等中等教育局幼児教育課長)

「幼児教育をめぐる情勢と今後の課題」

講演Ⅱ 石田 敦志氏
(Eリソースセンター株式会社)

「新制度施行により求められる幼稚園の本質」

講演Ⅰでは、少子化が進ん

でいる中で、そしてニーズが

多様化する中で私達はどのように子ども達と向き合い、何を育んでいけばいいのかを学ぶことができた。「遊び」を通しての「学び」の重要性について、五歳児の『ごっこ遊び』を例に自分の意見と相手の意見から妥協点を見つけ、課題解決能力を身につけていくこと等、即実践に繋がって

いけるような事案を学ぶことができ

た。

行政報告では、「幼児教育をめぐる情勢と今後の課題」についてのお話を頂いた。全国の幼稚園が抱える課題や認定こども園が抱える課題を可視化することで、現状を把握し課題に対してどのような策を国が講じているのか、そして私達はどのように乗り越えていけばいいのかを再確認することができた。

講演Ⅱでは、「人には必ず役割がある。早く役割に出会いなさい。役割の多くは仕事の中にある。」という言葉のもと、自分自身と園の役割について考えた。生き生きと輝く先生のもとには、多くの子ども達が集まり、そんな先生集団の幼稚園こそがこれからの幼児教育を担っていく。園の役割、先生の役割、それを明確にして人(園児や家族、地域、先生)と繋がっていくことが重要であると学んだ。



ワーク ショップでは、全国の同じ志を持つ先生方と「園に求められる姿」についてのディスカッ

ションを行い、各々の園での課題や改善方法等を共有することができ、とても有意義な時間になった。

今回の研修会に参加させて頂き、後継者として知識を得て、能力を高めるために自己研鑽していくことを改めて決意する機会となった。そして未来を担う大切な子ども達に向き合うかけがえのない仕事であるからこそ、自分自身の役割を見つけ、先生方にも自分自身の役割見つけることが出来るような園であるための環境構築をしていかなければならないと感じた。人を育てる仕事だからこそ人を理解し、認めて、高めてあげられるような後継者でありたい。

教員養成機関・栃幼連懇談会

期日：平成二十九年五月三十日(火)

午前十時三十分～

会場：二荒山会館 亀の間

●出席養成校(順不同)：宇都宮共和大学、白鷗大学、国学院短期大学、作新学院女子短期大学、足利短期大学、佐野日本大学短期大学、宇都宮ビジネス電子専門学校、国際介護福祉専門学校

●主な懇談内容：県内の養成機関八校(十四名)と栃幼連(正副理事長、

常任理事十名)との懇談会が例年通りに開催され、平野総務委員長の前に行われた。情報交換が促進された。ま



ず、平成二十八年年度就職説明会に参加した学生数が、若干減った事については各校とも学生に参加を促すことを確認した。また、前年より学生は複数の園から内定を受ける事が可能となったが、この事についても各校とも快く理解を示した一方で、「栃幼連加盟園の認識が、浅いのではないだろうか」という指摘もあった。その他、各校の進路状況実態について傾向を確認したが、一部の専門学校の進路実態では保育園に就職する傾向が特に強かった。しかし、全体的には、幼稚園並びに保育園に就職する人数は、ほぼほぼ互角か、やや保育園優勢傾向にある様だ。一部の養成校からは、保育園にはない幼稚園の良さを、どうか学生に訴えて欲しいという声も聞こえた。



幼児教育センターだより



幼稚園教育要領が改正されました！

三月三十一日に幼稚園教育要領の改正が告示され、各幼稚園等には、既に、文科省から県を通して、通知されたところです。

各園におかれましては、教育課程の見直し・修正等が必要となるかと思ひます。

その一助となりますよう、幼児教育センターでも、「新教育課程説明会」を始め、様々な機会に、その趣旨・内容の周知を図っていきます。

平成二十九年とちぎの幼児教育



幼児教育センターでは、従前より「とちぎの幼児教育」に基づき、幼児期の教育の充実や幼小連携の推進を進めてきました。

この度、昨年度策定された「栃木県教育振興基本計画2020—教育ビジョンとちぎ—」の施策の一つである「幼児教育の充実」の趣旨を踏

まえ内容を見直し、「平成二十九年 度 とちぎの幼児教育」として、本県幼児教育行政の方向性と主な施策・事業を示しました。

その推進に当たり、「県・市・町、小学校の役割」と並んで、「幼稚園・保育所・こども園の役割」を記載しました。幼児教育に御尽力いただく先生方と行政等が丸となり、とちぎの子どもの健やかな成長を支えていきたいと思ひます。

※本冊子は、四月十八日に各園一部ずつ送付しました。研修等に持参いただくこともありまので、大切に保管してください。

新規採用幼稚園教諭研修

四月五日、新規採用幼稚園教諭研修第一日を、総合教育センターで実施しました。期待と意欲に満ちあふれた新規採用教諭・保育教諭二十八名が、春のそよかぜとともに、さわやかな研修のスタートを切りました。



開講式では、阿久澤真理こども政策課長、船田弘和

森田浩子幼児教育センター長から挨拶があり、保育者の仲間入りをした新採者に歓迎の温かいエールが送られました。

「保育者として」「幼児期の健康管理と安全管理」「幼児期の教育の基

本」「保育の実践と省察」の講話・演習があり、新採者からは多くの気付きとこれからの保育への決意を感じました。

新規採用の先生方の子どもを思う熱い心が、保育実践者としての力量に結びつくよう、職員一同支援させていただきます。



園内研修を充実させます！

幼児教育調査研究委員会で作成し、「園内研修実践事例集」を作成し、



四月に、各園に配布いたしました。本冊子は、

分たちでできる研修ガイド」を活用し、カリキュラム・マネジメントに沿った園内研修の実践をまとめたものです。各園におかれましても、計画、実践、評価、改善のサイクルで研修を継続的に行い、教職員一人一人の資質・能力や園全体の組織力を高める参考にしてください。

また、幼児教育センターでは、教育・保育アドバイザー事業の一環で行っています。センター職員が継続的に園内研修をサポートし、研修効果が高まるように支援します。ぜひ

御利用ください。

研修の申込みはこちらから

研修の申込みは、こちらの研修案内（三月送付）を御活用ください。研修内容とFAX申込書が一体となっており、そのまま送信できます。また、四月十八日付けで研修等の緊急情報の提供についての案内を送付いたしましたので、研修案内とともに、一年間保存して、活用してください。



センター職員紹介

今年度のメンバーを紹介します。



センターマスコット
びよちゃん

- 神長顧問
- 黒川指導主事
- 高木副主幹
- 前原指導主事
- 吉田幼児教育専門員
- 森田センター長
- 吉河部長補佐
- 栗田幼児教育専門員



こども政策課だより

四月の定期異動により、子ども・子育て支援班では齋藤班長、神地主任が配属となりました。
引き続き幼児教育や子育て支援の充実に努めて参りますので、本年度もよろしくお願いいたします。



- 山崎主任
- 神地主任
- 高橋主任
- 尾崎主査
- 三井主事
- 稲見主査
- 齋藤係長
- 篠崎課長補佐
- 齋藤子ども・子育て支援班長
- 阿久澤課長
- 藤井課長補佐
- 大根田副主幹
- 増子副主幹

学校基礎調査（教職員確認等）のヒアリング実施について

学校基礎調査（教職員確認等）のヒアリングを次の日程で実施します。私学助成を選択する幼稚園のみが対象となります。御多忙のところ誠に恐縮ですが、担当者の出席について、御協力をお願いします。

● 日程

七月三日（月）、五日（水）

● 場所

板木県庁本館六階大会議室

● その他詳細については、別途送付する通知文を参照してください。

各種届出書類について

● 園則や園地・園舎、理事・監事等の変更を行った場合は、速やかに各種届出を提出願います。

● 学校法人の平成二十八年度決算書及び平成二十九年度収支予算書の提出期限は、六月三十日です。

● 平成二十八年度決算に伴う資産総額の変更登記は、五月三十一日までに行い、登記済届を六月三十日までに出してください。（寄附行為変更済みの法人においては、変更登記を六月三十日までに行い、登記済届を七月三十一日までに出してください。）

平成二十九年七月～九月までの事業予定

7月3日	※中堅幼稚園教諭等資質向上研修 板幼PTA総会
7月6日	資質向上研修
7月11日	O・I・2歳児研修
7月13日	※中堅幼稚園教諭等資質向上研修 就職説明会
7月14日	第64回県教研大会
7月23日	バス安全運転講習会
7月27日	新採研（集合研修）
7月28日	免許状更新講習
8月3日	全日私幼関東地区教研大会（新潟）
8月18日	（公財）幼児教育実践学会（北海道） 新採研（宿泊研修）
8月21日	※中堅幼稚園教諭等資質向上研修 資質向上研修
8月24日	保育テクニカル講座
8月29日	設置者・園長研修会
9月8日	※スキルアップセミナー
9月12日	※新教育課程中央説明会
9月14日	※は幼児教育センター事業
9月27日	

慶事

- 平成29年度
県各種功労者表彰（県知事表彰）
西那須野幼稚園
理事長 福本 光夫 先生
- 認定こども園さくらんぼ幼稚園
新園舎落成献堂式典
平成二十九年三月十八日
- 認定こども園のぶ幼稚園
新園舎竣工記念式典
平成二十九年四月一日
- 認定こども園牧が丘幼稚園
新園舎竣工式典
平成二十九年四月二十二日

訃報

- 佐野市 吞童幼稚園
元副園長 小林 道子 先生
平成二十九年三月二十日 逝去
謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

編集後記

晴れたり雨が降ったりと、天気の移り変わりが多いこの時期。子ども達は室内で戸外に関係なく、子ども達は汗ばみながらも日々色々な遊びを楽しんで幼稚園での生活を楽しんでいっていると思います。

さて、私たち幼稚園や認定こども園が地域における幼児期のセンターとしての役割を果たせるよう、親と子が共に育つという観点から、子育て相談や子育てに関する情報提供そして未就園児の親子登園など保護者同士の交流の機会の提供といった子育て支援を各園で積極的に推進している所だと思っています。

私の園でも週に数回、親子登園の会がありますがその時に保護者と何気ない会話の中で「最近、公園とか子どもの広場とかにいても親子づれの人たちが居ないんですよ」と言う話をよく耳にします。数年前までは家の近くの公園や子どもの広場などに遊びに行けば同年代のお友だちができて、いろいろな母親同士の情報交換もできた時代でした。しかし今ではそれに変わりネットやSNSが情報交換や友だち作りが変わっているのかも知れません。それだけに親子登園や子育ての情報発信をこれからも積極的に進めて行きたいと思っています。

最後に本年度も幼児教育振興の為、皆様にはご協力お願いいたします。
（佐野たちばな幼稚園 石原 顕彰）